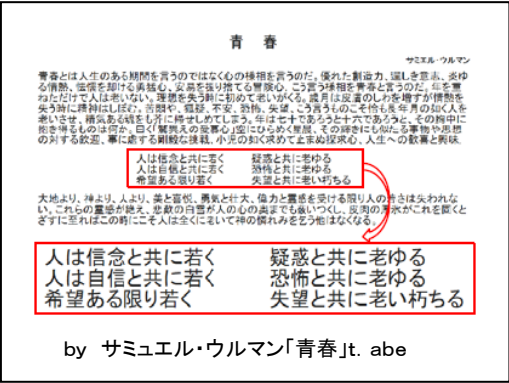


「若さ」＝「信念」x「自信」x「希望」

1. サミュエル・ウルマン「青春」

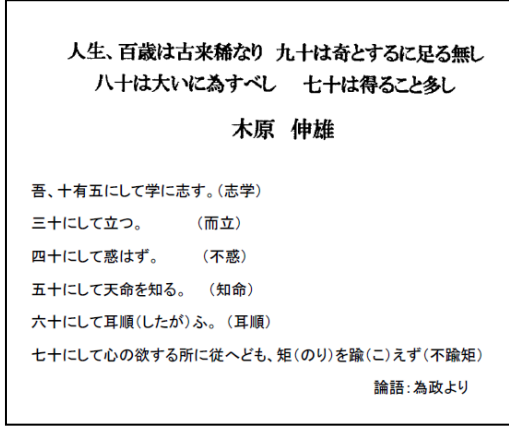
右掲は、第2次世界大戦後、焦土と化した状態から立ち直る時に、多くの経営者を勇気づけたと言われるサミュエル・ウルマンの「青春」という詩であります。t. abeという方がネットに掲載していた物をコピーしていますが、真ん中の3行に大きな意味があります。すなわち、

人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる
人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる
希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる



であり、これを公式化すると「若さ」＝「信念」x「自信」x「希望」となるのです。肉体の若さではなく、精神の若さが重要であり、精神の若さがなければ、年が若くとも老いぼれたものになると言うのです。

右掲は558号でご紹介した広島の木原先生の言葉と論語です。先生は、60代で胃がんで摘出され、その後もガンが発見されて手術を繰り返されていますが、その度に復帰されて、ライフワークの「そうじ・あいさつ・はがき」を続けられ、さらに、「デイリー・メッセージ」やタブロイド判のタウン誌形式のPR紙を発行されています。まさに、「信念」を実感します。この「信念」があるから「自信」と「希望」を失わずに頑張っておられるのだと理解しています。



2. 「もう一花」

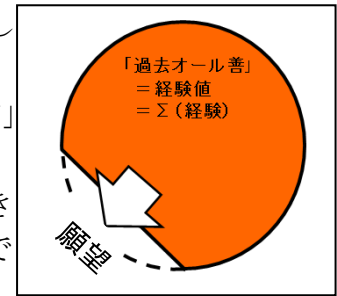
実は、木原先生とのメールのやりとりで「七十は得ること多し」で私にも必ず「ひと花」が来ると励まして頂いています。この事で私は元気を取り戻したと実感しています。先生は私の10年先の姿と思ひ尊敬してウオッチングしていますが、その先生から励まされて感激しているのです。ここ数年、NHKの大河TVを見るようになって「命を使い切る」という言葉に出会っています。自分の「命」をどのように使い切るかと自問自答しているのですが、先生から「もう一花」と教えて頂き、上述のサミュエル・ウルマンの「青春」で「若さ」＝「信念」x「自信」x「希望」を思い出したのです。「もう一花」という漠然とした「希望」が湧いたのです。

実際に、私に欠けようとしていたのは「希望」と気づいたのです。妻に先立たれて来月で満4年になりますが、日常の事を何もして来なかったのが、一時、困りましたが、毎日を三男と一緒に生きてきたのです。今年は2月に、その三男がお客様の仕事で約半年彦根に行っていたので、本当の意味で一人暮らしになり、衣食住という日常性を自分で出来る自信が付きまして。9月に三男が帰って来ましたが、家事は自分でするようにしています。このリズムの変化で、気持ち的には「主夫」という感じで、安定したお客様と年金で満足しかかっていたのです。この「満足」で「心」に緩みが出て「希望」という精神エネルギーが薄れかけていたのです。

お蔭様で「もう一花」という「希望」で復活したので、残りの「信念」と「自信」が蘇ったのです。いろんな事に後ろ向きになりかけていましたが、積極性を取り戻しています。新しい事にも「いいじゃない」と素直に言えるようになりました。年齢的にも「受容」という言葉が肝腎要の言葉と実感しています。いろんな方と接触する訳ですが、それぞれの背景も理解して「いいじゃない」と受け止められるようになったと思っています。

3. 「信念」と「自信」

右掲は「過去オール善」という故船井先生の教えを元に私がルール化している物です。「経験値」= Σ (経験) に裏づけられた「願望」が重要だと意味しているのですが、この「経験値」から生まれるものに「信念」と「自信」があるのです。経営コンサルティングに関わらず、どんな仕事でも「信念」と「自信」がベースになります。幾ら良い事を言っても現場で実践できない事では他人を動かす事ができないのです。特に、「評論」的な立場では、現場の方とは心が通わず一体化できないのです。

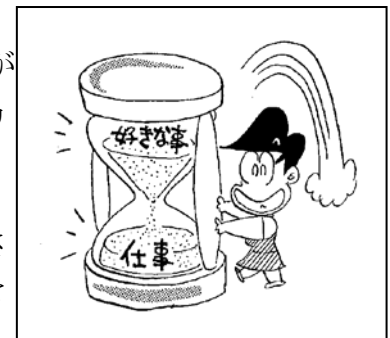


私は、経営コンサルタントに憧れて船井総研の客員経営コンサルタント養成学校で船井流を学んだのですが、その指導して下さった元役員の宮内先生が「自分で出来ない事を言わない」と教えて下さったのです。その結果、自分で出来る事を見つめ直して「Faxちらし・3段活用マーケティング」を商品と掲げたのです。‘95年はインターネット元年と呼ばれた時だったので友人から「今さらFaxかよ」と揶揄され、強く反発心を心に秘めたのを覚えています。お蔭様で第1号のお客様で初年度16億円から20億円と売上を伸ばす事が出来て「自信」となったのです。

この経験で「形は心を動かす」という「信念」が出来て「ちらしはお客様への手紙」という信条で今日まで至り、その間に、デザイナーの前澤さんを雇い、最近では、三男が入社してシステムを担当して「数字は命令する」を実践してくれています。当社のHPには「業務改善とシステムによる経営革新のイー・エム・アイ」と謳っていますが、まさに、「信念」と「自信」の賜物です。これからも、この流れをつないでいきたいと思っています。

4. 「矩を躓えず」

孔子の論語「為政」編に「心の欲する所に従えども矩を躓えず」(従心)を70代の心構えとしており、「矩を躓えず」すなわち「自分の思うがままに行なっても、正道から外れない」と釘を刺しているのです。右掲は、「好きな事」=「仕事」というイラストですが、好きな事をやっている限り、イラストのように楽しそうに笑顔でやり続けられるものです。従って、自分の「経験値」= Σ (経験) から大きく外れるような事に手を出さず、「正道」を歩む即ち「危ない事」には手を出さず「腑に落ちる」事を行なう事と弁えていきたいと思っています。



このような縛りを掛けながら「若さ」=「信念」x「自信」x「希望」で「命」を燃やして行きたいのです。「希望」は実績に裏付けられた延長線上のイメージ即ち手の届く範囲で少しずつ積上げて行く事になります。「小さな事からコツコツ」とは漫才師の西川きよしさんの名言ですが、「小さな喜び」を積重ねて Σ (小さな喜び) で、結果的に「大きな喜び」になれば良いと思っています。まあ、「希望」= Σ (小さな喜び) と考えたいのです。この範疇であれば、落とし穴に遭遇しても大きなケガはなく、今までの蓄積でリカバリーが効くと思っています。

また、私的な面では、例えば、「儲け話」という誘惑がありますが、投機性の高い話やもったあり得ないような話には乗らない・近づかない事が基本であります。さらに、私は、妻に先立たれているので女性の誘惑もあり得ますが、「後妻業」という類に惑わされずに自分で生きて行く覚悟でいる事が肝腎と思っています。まあ、大きな財産がある訳ではないので、そんな可能性は薄いと思っていますが、いろんな女性がいるので魔が刺さないように心を引き締めて「理性」が常に働くように精神を鍛練して行きたいと思っています。